ひと夏の出来事

真鍋　夏蓮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ひと夏の出来事

【Ｎコード】
Ｎ６２３８Ｉ

【作者名】
真鍋　夏蓮

【あらすじ】
どこにでもいる普通な女子高生「海歩」のもとに６年前に引っ越して行った幼馴染からの１通の手紙がとどく。一言「会いに行く」と。はたして、幼馴染とは会う事ができるのだろうか。

第1話

それは一通のはがきから始まった、ひと夏の出来事。

「海歩、はがきてるぞ」
私は朝起きてから、お父さんに1枚のはがきを受け取った。
差出人は久瀬（くぜかける）　駆だった。
「駆君、久しぶりだな。昔は毎日一緒に遊んでいたのにな。引っ越ししてから何年たったっけ？」
「そんな時もあったね。駆引っ越してから・・・6年ぐらいかな」
私ははがきを持って自分の部屋へ行った。

『海歩、久しぶり。元気にしてるか？今年の夏、そっちへ行きます』

郵便局で売っている夏らしい絵のはいった暑中見舞いのはがきに、その一行だけが書かれてあった。
「そっけないな～。」
駆は私と同じ歳で幼馴染。家が近かったこともあって、毎日海や公園で遊んでいた。
駆が引っ越したのは小5の夏休み。それから6年。私達は高2になった。
6年の間に1度だけ、駆と会ったことがあった。それは、私のお母さんが亡くなった時だった。
私が中学校に入学したばっかりの春だった。
もともと体は丈夫な方ではなかったが、ある日突然倒れてそのまま病院で数日の間に亡くなった。
それ以来、駆とは会っていなかった。

私、咲山（さやまみほ）　海歩。私の家は海の近くで喫茶店をしている。1階が店で上が家になっている。
もともとはお父さんのお父さん、私からしたらおじいちゃんが喫茶店を初めて、今はお父さんが店主をしている。
私も手が足りない時は店に出ている。

ぼんやり昔の事を思い出していたら、ノックの音が聞こえた。
「海歩、父さんが買い出し行って来てってさ」
1歳下の弟、海斗（かいと）だった。
「わかったわ。あんた、荷物持ちね」
「それ、はがき？誰から？」
私が手にもっているはがきを指さした。
「駆よ。今年の夏にこっちに来るんだって。いつかは知らないけど」
「へ～。駆兄ちゃんか。懐かしいな。今何してるんだろう」
「さぁ～ね。もう6年もたつのよ。そんな事しらないわよ。ほら、さっさと買い物いくわよ」
私は海斗を部屋から押し出した。

今日から、夏休み。私も海斗も部活には入っていないので、用事がないかぎり家の喫茶店の手伝いをすることになっている。
ただし、バイト代が入るわけではない。
私と海斗は同じ高校へ通っている。家から自転車で15分の距離にある高校である。
運動神経のよい海斗は時々、運動部から助っ人を頼まれている。
私はといえば、運動はそこそこ。読書が好きな普通な女子高校生である。

第1話（後書き）

はじめまして。真鍋夏連と申します。

初めての作品です。かなりドキドキで投稿しました。

連載予定なので、物語を最後まで楽しんでいただけたら幸いです。

よろしくお願いします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6238i/

ひと夏の出来事

2010年10月20日15時16分発行